

会 議 録

1 会議名

令和元年度 第7回諏訪区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

(1) 自主的審議事項

① 市の移住施策の取組について

3 開催日時

令和元年 11 月 29 日（金） 午後 7 時から午後 8 時まで

4 開催場所

諏訪地区公民館 集会室

5 傍聴人の数

3 人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：石黒太一、内山恵悟、川上奈津子、川上久雄（副会長）、西嶋明子、
星野一巳（会長）、松縄節子、山岸 愛、山岸一之 （欠席 3 人）
- ・ 市 長：自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長
- ・ 事務局：中部まちづくりセンター 本間センター長、藤井係長、田中主事

8 発言の内容（要旨）

【藤井係長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条第 2 項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第 8 条 1 項の規定により、会長が議長を務めることを報告

【星野会長】

- ・ 挨拶

・会議録の確認：松縄委員に依頼

次第2 議題「(1)自主的審議事項」の「①市の移住施策の取組について」に入る。
自治・地域振興課より説明を求める。

【自治・地域振興課：小山中山間地域振興・移住促進係長】

・資料3、資料3別紙1・同別紙2、資料3参考資料1・同参考資料2・同参考資料3に基づき説明

【星野会長】

質疑応答に入る。今ほどの説明を踏まえ、市が取組んでいる移住施策について質疑を求める。

(発言なし)

今年度から新たに移住インフルエンサーが設置された。当市に興味を持つ人を増やすため、情報発信力のある先輩移住者が定期的に地域の魅力や暮らしぶりを SNS 等で発信するとし、現在5人のインフルエンサーがいる。

協議会委員に確認したい。設置から半年程しか経っていないため、そんなに活発に活動できてはいないと思うが、スタートしたからには何らかの情報を発信していると思う。委員の中で SNS 等で情報を受け取った、または、見聞きしたことのある委員は発言願う。

【自治・地域振興課：小山中山間地域振興・移住促進係長】

フェイスブックで情報等を発信しているため、フェイスブックのアカウントを持っている方であれば情報を見ることができる。参考資料2には、インフルエンサーを写真つきで掲載している。フェイスブックにてハッシュタグ「上越移住」また「上越市移住インフルエンサー」を検索すると、発信されている情報を見ることができる。発信している人の中には諏訪地区在住のインフルエンサーもいる。上越市は、中山間地域と街中のエリア、さらに中間のエリアが混在しているような地域である。それぞれの地域の日常生活を発信してもらっている。これらの人たちはいずれも移住してきた人たちである。移住を考える人には、実際に移住をした人の暮らしぶり情報を発信したほうがより届くと考え、移住者をインフルエンサーとして委嘱し、発信してもらっている。

【山岸 愛委員】

フェイスブックを検索すると上越移住支援ネットワークのページが出てくるが、直接インフルエンサーのページに行くことはできないのか。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

それぞれ個人アカウントで発信をしている。

【田中主事】

市のホームページにも掲載している。

【山岸 愛委員】

「上越移住」で検索する人とは、どういった人なのか。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

行政がハッシュタグ自体を広めなければならないと思っている。またどういった人に見てもらいたいかという、やはり移住を考えている人たちである。自分たちが移住を考えている人に会える機会というのは、首都圏での移住相談が主である。そこで会った移住を考えている人に対してフェイスブック等を案内している。

また、自治・地域振興課では移住に関するホームページを上越市のホームページの中に作成している。そこに情報を掲載することによって、閲覧した人にフェイスブックの情報を得てもらえるようにしている。地域協議会委員からも、情報を発信している旨を友人等に案内してもらおうことによって、そこからまた拡散していくことも考えられるため、ぜひ協力を願いたいと思っている。

【星野会長】

フェイスブック等の SNS を見れる道具は一応持っていますが、なかなか使いこなすことは大変である。だが若者はそういったものに長けていると思うため、移住に関する情報を発信していることを我々の立場で周りの人や若者に宣伝していけば良いと思っている。

他に質問等あるか。

【川上副会長】

現在、上越市内には2人の地域おこし協力隊が活動しているが、事業内容を見ると細かく記載しており、なかなか大変だと思う。実際に活動する前の事前研修や応募時に得意分野等を謳った上で応募するのか等、詳細を教えてください。資料を見ると、相当勉強しなければ難しいように感じる。諏訪区として派遣を希望する場合に

は要請することになるのか。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

地域おこし協力隊の研修に関しては、国や県等で、基本的な地域おこし協力隊の心構えを学んだり、ネットワークを作る目的の研修会はある。個々の協力隊に求められることは、やはり地域が求めるものによって異なってくる。地域によっては、農業に関連する仕事があるため、それに関する資格や研修が必要になってくる。また、大島区の隊員の場合、企画やウェブデザイン等も求められるため、それらの技能を習得するための研修等も必要になると思う。事業において必要な研修については、必要に応じて地域おこし協力隊の活動経費として、市で負担して受講してもらう場合もある。地域が必要とする、協力隊員の人柄や取得済の技能・能力等が決まっている場合、最初から条件を付して資格を有している人を募集し、試験・採用することもある。いずれにしても、地域として求める人材・必要な資格等を、まずは地域で考え、それに見合った人材を市で募集し、地域住民と一緒に試験をして採用するかたちをとっている。採用した中で、さらに必要な条件等があった際には、市でも資格取得や研修できる場の提供をしている。

【川上副会長】

やはり、意欲がなければ協力隊になることは難しいと感じた。

【星野会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

これまでに他地域を訪問し、いろいろなことを勉強した。今年度、七尾市を訪問したが、地域おこし協力隊が非常に前向きに移住関係の仕事を成功させており、「集落の教科書」を発行したと聞いてきた。諏訪地区でも、そういったものがあれば良いと思っている。だが、自分たちだけではなかなか難しい。現在、地域おこし協力隊が上越市内に何名かいるが、諏訪地区にも協力してもらい集落の教科書のようなものを作成できないかと考えている。そのために市に何かしらのお願いをしたいと思っているのだが、どうしたら良いのか悩んでいるためアドバイスが欲しい。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

集落の教科書については、おそらく移住を考える人に向けて、集落の状況を知っ

てもらうことを目的としたものだと考えている。現在、上越市では移住・定住コンシェルジュが活動している。コンシェルジュが地域と関わる中で、集落の教科書等の作成に関わることができれば良いと、話を聞いて感じている。地域おこし協力隊については、派遣地域の地域ビジョン実現のため、地域住民と一緒に取組を進めている。やはり現状でミッションがあるため、その中で活動することが本筋ではないかと思っている。市全体での取組として、地域おこし協力隊が取り組むことはできるかもしれないが、現実的には目的があって活動している隊員である。もし諏訪地区での取組に対してということであれば、移住・定住コンシェルジュ等が関わるのが適当ではないかと感じている。

【星野会長】

妙高市でも移住・定住に対してふるさと暮らし支援センターで取り組んでいると思う。上越市と妙高市にまたがって色々を見聞きしている委員もいると思う。その辺も含めて何か聞いておきたい情報等あるか。

【松縄委員】

自分の知っている人で、除雪等を行う際に牛乳パックの帽子を使うと水が染みなくて良いと人々に教えている人がいる。その人は以前に新聞にも掲載されていた。行政の女性の職員で鴨島の看護学生たちと一緒にお祭りのような催しをしている人もいる。しかしこれは2年ほど前に聞いた情報であるため、現在の状態は分からない。牛乳パックの帽子を作成している人は大阪から来た人だと聞いている。

【星野会長】

他に質問等あるか。

【山岸 愛委員】

先ほど説明にあった移住インフルエンサーについてである。現在活動しているのは5人であるが、今後人数が増えていく可能性はあるのか。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

理想を言えば、上越の魅力が市民が発信していくことで、移住を考えている人にも届くと思っている。現在の移住インフルエンサーは、上越市ふるさと暮らし支援センターという相談窓口と関わりを持った人の中から人選している。今後はどんどん活動が広がっていくほうが、当然良いことだと考えている。今後は広がりも含め

て考えていきたいと思っているところである。ぜひ SNS を見ていただき、拡散してほしいと思っている。

【山岸 愛委員】

現在はフェイスブックのみとのことだが、今後は他のツールも展開していく予定等はあるのか。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

ターゲットを一応「家族」とし、30代から40代くらいとしている。対象の年代がフェイスブックを多く利用しているとのデータもあるため、対象の年齢層に届けていきたいと考え、まずはフェイスブックを開始した。ただ現在は様々な SNS があり、インスタグラム等のほうが若者には浸透している。

【山岸 愛委員】

正直、悪い言い方になってしまうが、フェイスブックは年寄りのツールになりつつあるのが現状ではないかと思う。フェイスブックはどうしても公開する情報が多いため、個人情報として友人とリアルにつながるツールとしては一番良いと思う。心配な点として、田舎では個人特定がしやすいというのが、SNS の最たる難点だと思っている。現在活動している移住インフルエンサーについても、自分から進んで発信する分には良いが、この人たちの SNS をシェアすることによって、自分もその地に住んでいることを大々的に公開してしまう恐れが一番あるのがフェイスブックだと思う。その地に住んでいて自分も PR したい人は良いと思う。しかし、ただ見るだけという人が実はすごく多く、足跡を残さないのがフェイスブックだと思っている。そのため、シェアする確率が現在はすごく低いように思う。「いいね」を押す人は関係者ばかりな気がしている。自分も仕事柄 SNS を活用するが、仕事としての「いいね」は付けても個人としての「いいね」を付けるのはインスタグラムだけである。理由としてはインスタグラムには「諏訪在住」「上越在住」といったことを示す印がないためである。自己紹介文に記載したとしても、どこの誰だか分からない前提で発信できる良さがあり、気軽に活用できる。例えば、隣の住人が「いいね」を押してくれても、それが隣の住人だということは外にはわからない。しかしフェイスブックではその可能性を考える必要がある。こういったシステムはすごく素敵だと思うし、まちおこしに関わる人たちからもっと発信して欲しいと思うの

だが、20 歳代から 30 歳代の子育て世代の多くはインスタグラムではないかと考えている。さらにいうと、動画サイト等の若者向けの SNS もたくさん出てきていると思う。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

確かに、SNS もそれぞれに特色がある。まずはフェイスブックという媒体を使用しているが、今発言のあったような観点でも検討をしているところである。より気軽に地域の魅力に触れてもらおうとすれば、インスタグラムを活用することも一つの手法だと思っている。そこは今後検討していきたいと考えている。

【山岸 愛委員】

現在、観光コンベンション協会が上越、妙高、糸魚川の風景の写真コンテストを開催している。案内が始まった当初は、正直なところ、またかと思い、そんなに参加する人もいないのではないかと客観的に思っていた。インスタグラムをフォローしているのだが、毎日すごく写真が投稿されている。何気ない雁木や田んぼの夕日、柿の木やトンボが飛んでいるといったこの辺の風景が投稿されている。結構たくさん「いいね」も付き、どこそこのといったネタにもなると思う。案外侮れないと感じている。写真のインパクトでの好き嫌いという即効性も必要だと思う。文章ではできない、単純に一目見て好き・嫌いを判断する手法で魅力を伝えることが、上越市は下手だと思う。写真コンテストの企画を通じて、写真だけが広がっていき、そこがどこなのかは後からついてくる方法も一つだと思う。ストレートに魅力を伝えるツールとしては良いと思う。まちおこしに関わる人たちは、山間地で普段自分たちが見ることのできない風景を見ながら特殊な仕事をしていると思う。それが、報告として長い文章の後ろについている 1 枚の写真ではなく、素敵な日常を切り取った写真を気軽に拡散していくようなシステムができれば、どのような人たちが選ばれ、どんな人たちが頑張っているのかといったハッシュタグの意味がもう少しついてくるように思う。現在はわざとらしいというか、やらされている感があるように思うため、逆にもったいないように思う。宣伝でしょといった感じがする。

【自治・地域振興課 小山中山間地域振興・移住促進係長】

今ほどのような意見は、非常に重要な話だと思っている。例えば自分たちは、直接的な表現で上越市への移住を発信しようと考えていた。発信のツールとしてフェ

イブックを活用すれば、見る人が増えると単純に考えていた。そこは、行政であるがゆえの難しさのようなものも若干あるように思う。しかし市民の目線で見ただけの情報発信がなければ、今後 SNS を活用していく意味も薄れてきてしまう。そういった意見を聞くことができるのは非常に有意義だと思う。

【星野会長】

他に質問等あるか。

(発言なし)

以上で次第 2 議題「(1)自主的審議事項」の「①市の移住施策の取組について」を終了する。

次に次第 3 「その他」の「(1)次回の開催日の確認」について、事務局に説明を求める。

【藤井係長】

- ・次回協議会について説明

【星野会長】

— 日程調整 —

- ・次回の協議会：12月16日（月）午後7時から 諏訪地区公民館 集会室
- ・内容：自主的審議事項

最後に「(2)その他」に入る。何かあるか。

(発言なし)

最後に自分から1件報告をする。

- ・11月6日開催の地域協議会会長会議の報告と感想（検討要請のあった内容については、1月の協議会にて審議予定）

【藤井係長】

今年度の地域活動支援事業の中で、くびき野諏訪スポーツクラブより、事業計画の一部変更の申請があった。当初の計画では、11月にセパタクロで千葉のキッズ大会に参加する予定であったが、主催者側の事情で開催中止となった。それに伴い、他チームとの交流や技術向上の機会がなくなってしまったため、その替わりとして12月に長野で開催される練習会に参加したいとの申し出があった。予算的には当初の金額以内となる見通しである。その内容で変更申請を承認したいと思っている。

【星野会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部自治・地域振興課中部まちづくりセンター

TEL : 025-526-1690 (直通)

E-mailchubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。